

豊かな暮らしを これからも 世界と日常をつなぐ 総合物流サービス

経営方針

- 1 取引先顧客へのサービス向上を第一とし、当社のステークホルダーへの信頼関係の構築を維持します。
- 2 健全な財務体質を意識しながら経営基盤の安定と強化を基本とし、筋肉質な体質を実現すべく、既存事業の利益改善を図ります。
- 3 これまでのビジネスモデルに捉われないこと、時代のニーズに合致した物流の構築を進め、DXの推進やサステナビリティなどの社会課題に対応した企業を目指します。

CONTENTS

イントロダクション	経営方針 P.01	事業概況	国内物流事業 P.25
	目次・編集方針 P.02		国際物流事業 P.27
	価値創造の軌跡 P.03	サステナビリティ	マテリアリティ P.29
	At a Glance P.05		コーポレート・ガバナンス P.33
	財務ハイライト P.07		リスクマネジメント P.39
	非財務ハイライト P.08		コンプライアンス
価値創造ストーリー	トップメッセージ P.09		情報セキュリティ P.41
	価値創造プロセス P.13		サステナビリティ P.42
	長期ビジョン P.15		社外取締役メッセージ P.43
	中期経営計画 P.17		取締役 P.44
	財務資本戦略 P.19	財務・企業データ	主要連結財務データ P.45
	CFOメッセージ P.21		会社情報・株式情報 P.47

ツールマップ



編集方針

本レポートは、すべてのステークホルダーの皆さまに、当社の事業戦略や、業績、財務情報、非財務情報についてご報告し、ご理解していただくためのコミュニケーションツールとして作成しています。編集にあたっては、国際会計基準(IFRS)財団「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省「価値協創ガイダンス2.0」を参照しています。本レポート全体を通じて、統合思考に基づいた価値創造ストーリーの発信を強化するとともに、対話の質の向上に努めています。



価値創造の軌跡

当社は、創業者川西清兵衛が兵庫港で倉庫業として、羊毛、米、豆類、皮革等の保管、それに伴う運送事業を開始してからの長い歴史のなか、震災や戦争、経済危機など幾度となく訪れた試練をも乗り越えながら、国内主要港や海外へと拠点展開するとともに、成長・発展してまいりました。



1903 ~ 1934 ~ 1960 ~ 1986 ~ 1999 ~ 2017 ~

1903 ~ 明治から昭和初期、川西倉庫の誕生 羊毛の取り扱いから事業が始まる

明治36年に羊毛の保管・荷捌を主たる業務とし、兵庫港で創業者である川西清兵衛の個人事業として倉庫業を開始。やがて神戸・大阪・名古屋・横浜と事業を拡大し、さらには当社発祥の地・神戸にて専業者としては先駆けとなる冷蔵倉庫業を開始。

1934 ~ 戦前戦後、世界と戦う背景で神戸港を中心とした倉庫業の展開

神戸港での普通倉庫設置を皮切りに大阪港へ進出し、順調に拠点を展開。やがて日本は第二次世界大戦の渦中へ。戦時統制により、日本倉庫統制(株)へ普通倉庫業の譲渡、解散を経て再開などを経験。

1960 ~ 昭和の成長期、国内投資戦略主要港に続き、内陸倉庫の拠点展開を開始

戦後、復興に向かった日本経済は高度経済成長期へ。営業力強化のための拠点展開、国内主要港のみならず物流の要衝地となる内陸にも倉庫の設置を進める。また、荷役業務の効率化、業務の多角化を図る目的で関係子会社も設立。

1986 ~ 第一次海外進出戦略 国際部の設置により海外展開が加速

物流の多様化・国際化に向けて国際部を設置、海外への進出戦略を加速。また、グローバル化に向けて、さらに高品質の物流サービスの提供を目指し、ISO規格を取得するなど体制を整える。

1999 ~ 第二次海外進出戦略 インドネシアに拠点を置き、コールドチェーンを海外へ

経済発展の著しいASEAN域内の物流強化、同地域への積極的な進出により成長戦略を加速。特に急激な経済発展が続くインドネシアに着目。所得水準の向上により冷凍冷蔵食品の需要が高まるなか、いち早く本格的なコールドチェーンの核として展開するため、同国で日系では初となる冷凍冷蔵倉庫を設置。

2017 ~ 次の100年へ向けて、さらなる挑戦

創立100年を見据え、さらなる業容の拡大と企業価値向上のため東京証券取引所市場第一部に指定。この100年で培ったことを誇りに次の100年へとさらなる変革・成長に挑む。基本戦略「既存事業の拡大・強化」のもと、国内では、北関東地区での集荷強化を目的に新倉庫を設置。海外では、ますます需要の高まるインドネシアでの第二倉庫や米国とベトナムに現地法人を設置。

- 1903 ● 羊毛の保管・荷捌を主たる業務とし、川西清兵衛の個人事業として倉庫業を開始
- 1918 ● 神戸市に前身となる川西商事株式会社を設立
- 1922 ● 川西倉庫株式会社に商号を変更
- 1924 ● 大阪市西区に大阪出張所を設置
- 1925 ● 名古屋市中央区に名古屋出張所ならびに普通倉庫を設置
- 1926 ● 名古屋市港区に普通倉庫を設置(現：名港営業所築港物流センター)
- 1928 ● 横浜市中区に横浜出張所を設置
- 1931 ● 神戸港で冷蔵倉庫の営業開始

- 1934 ● 神戸港兵庫突堤に普通倉庫を設置(現：兵庫突堤営業所)
- 1937 ● 神戸港第五突堤に普通倉庫を設置(現：第五突堤営業所)
- 1939 ● 大阪市港区に普通倉庫を設置(現：築港物流センター営業所)
- 1944~1945 ● 戦時統制にて普通倉庫業を譲渡、解散により再開
- 1945 ● 兵庫県加古郡に東播出張所を設置(2020年閉鎖)
- 1946 ● GHQより米軍の輸送用凍水生産設備の拡張要求により甲子園製氷冷蔵株式会社を設立
- 1948 ● 名古屋運輸作業株式会社を設立(1979年株式会社メイサクに商号を変更)

- 1960 ● 名古屋市港区に稲永営業所を設置(現：名港営業所稲永倉庫)
- 1962 ● 東京都中央区に東京事務所を設置
- 1963 ● 横浜市中区に山下埠頭営業所を設置(2022年閉鎖)
- 1967 ● 大阪府茨木市に茨木営業所を設置
- 1968 ● 大阪市港区に大阪港営業所(冷蔵倉庫)を設置(2023年閉鎖)
- 1971 ● 愛知県小牧市に小牧営業所を設置 ● 横浜市中区に本牧埠頭営業所を設置(現：本牧営業所)
- 1972 ● 大阪府大東市に大東営業所を設置 ● 名古屋市港区に稲永営業所金城倉庫を設置(現：金城営業所空見倉庫)
- 1975 ● 愛知県海部郡飛島村に名古屋港流通センター営業所を設置
- 1982 ● 川西港運株式会社を設立(大和運輸作業株式会社と阪神港運株式会社を合併)
- 1983 ● 川西ファインサービス株式会社を設立
- 1984 ● 神戸市東灘区に六甲アイランド営業所を設立(のちの、六甲ターミナル営業所)

- 1986 ● 東京都中央区に国際部を設置
- 1987 ● 川西倉庫運輸(香港)有限公司を設立(2010年清算手続済)
- 1988 ● 川崎市川崎区に東扇島営業所を設置 ● 東京都大田区に大井営業所を設置
- 1989 ● タイ・バンコクに現地法人THAI KAWANISHI LIMITEDを設立
- 1990 ● シンガポールに現地法人KAWANISHI LOGISTICS (S) PTE.LTD.を設立 ● 横浜市鶴見区に大黒営業所を設置
- 1994 ● 福岡市中央区に九州事務所を設置 ● 大阪証券取引所市場第二部(特別指定銘柄)に株式上場
- 1995 ● 神戸市東灘区に六甲営業所を設置 ● 神戸市東灘区に六甲ターミナル営業所を7号西上屋に設置(現：六甲ターミナル西営業所) ● 上海事務所を設置
- 1996 ● サンフランシスコ事務所を設置(2025年閉鎖) ● 大阪証券取引所市場第二部に指定
- 1997 ● ISO9001認証を取得
- 1998 ● 名古屋市港区金城ふ頭に倉庫を設置(現：金城営業所) ● 山形県上市市に上山倉庫を設置

- 1999 ● 神戸市中央区にポートアイランド営業所を設置
- 2000 ● マニラ事務所を設置
- 2003 ● 青島事務所を設置(2025年閉鎖)
- 2007 ● 大連事務所を設置(2016年閉鎖) ● グリーン経営認証を取得
- 2008 ● ホーチミン事務所、ハノイ分室を設置(ハノイ分室 2021年閉鎖)
- 2011 ● AEO特定保税承認者の承認
- 2012 ● AEO認定通関業者の認定 ● 埼玉県加須市に関東物流センター営業所を設置(現：関東物流センター加須営業所) ● ジャカルタ事務所を設置(2023年閉鎖)
- 2013 ● 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所市場第二部に上場 ● 香港事務所を設置
- 2014 ● 太陽光発電および売電事業を開始
- 2016 ● インドネシア・西ジャワ州に現地法人PT KAWANISHI WAREHOUSE INDONESIAを設立 ● 関汽運輸株式会社の全株式を取得し子会社化(2020年全株式を譲渡)

- 2017 ● 東京証券取引所市場第一部に指定
- 2018 ● 創立100周年を迎える ● 株式会社マルカ陸連の全株式を取得し子会社化
- 2019 ● 埼玉県北葛飾郡に関東物流センター杉戸営業所を設置
- 2020 ● 山形県上市市に上山蔵王倉庫を設置
- 2021 ● 横浜市中区本牧ふ頭にパイブリッジ営業所を設置
- 2022 ● PT KAWANISHI WAREHOUSE INDONESIAに第二倉庫を設置 ● アメリカ・カリフォルニア州に現地法人KAWANISHI LOGISTICS(AMERICAS) INC.設立 ● 東京証券取引所スタンダード市場に移行
- 2025 ● ベトナム・タイニン省のTOAN PHAT LOGISTICS JOINT STOCK COMPANYの株式51%を取得し子会社化
- 2026 ● 株式会社エムティーサービスの全株式を取得し子会社化

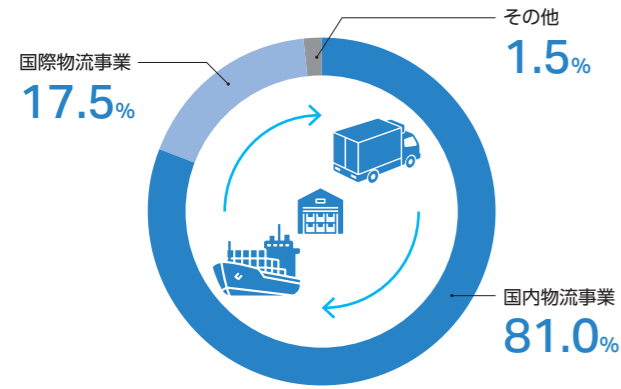


売上高の推移



At a Glance

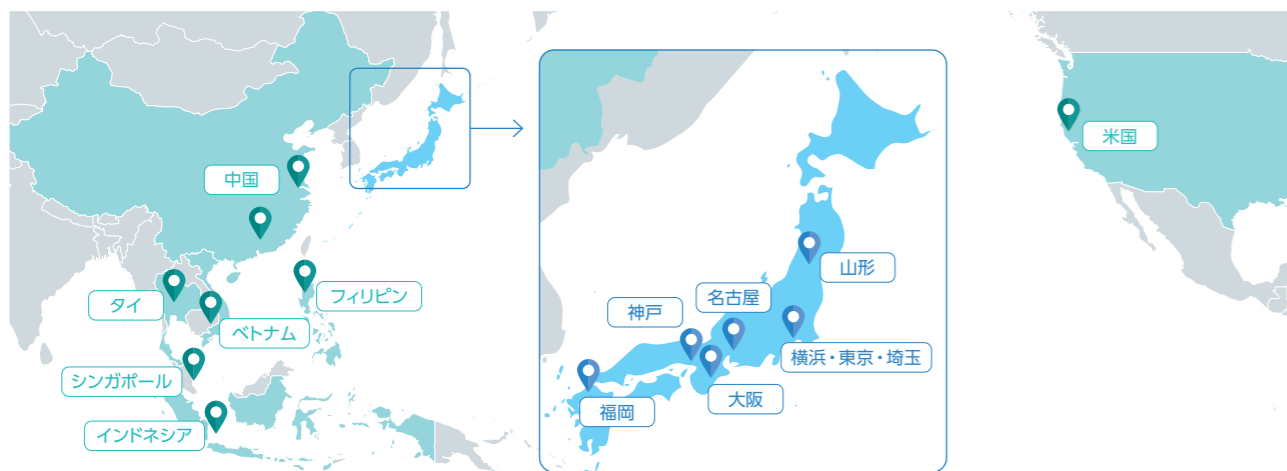
売上高構成比率



連結従業員数



事業展開



国内グループ会社

- 川西ファインサービス株式会社
- 川西港運株式会社
- 株式会社メイサク
- 株式会社マルカ陸運
- 株式会社エムティーサービス

海外現地法人

- THAI KAWANISHI LIMITED
- KAWANISHI LOGISTICS (S) PTE.LTD.
- PT KAWANISHI WAREHOUSE INDONESIA
- KAWANISHI LOGISTICS (AMERICAS) INC.
- TOAN PHAT LOGISTICS JOINT STOCK COMPANY

駐在員事務所

- 上海事務所
- 香港事務所
- マニラ事務所
- ホーチミン事務所

主要事業の概況



倉庫(保管・荷役)

普通倉庫、冷蔵・冷蔵(チルド)倉庫を完備しており、万全な品質管理ときめの細かい在庫管理システムでいかなる温度帯の貨物にも対応しています。



港湾運送

貨物の海上運送と陸上運送との接点の業務、すなわち、船舶からの貨物の積み下ろしや、ターミナルにおいてコンテナ貨物の取扱業務を行っています。



輸送・配送

東京、横浜、名古屋、大阪、神戸の主要港で海上コンテナの輸送ネットワークを展開し、DOOR TO DOORサービスの強化にも努め、ニーズに合わせた最適な輸送サービスを提案しています。



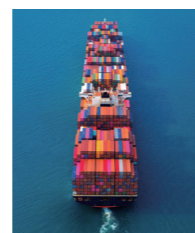
流通加工

倉庫をお客様の生産活動の一端を担う加工拠点として、豆類の選別加工、各種商品のラベル・値札付けなど商品の付加価値・利便性を高めるサービスを提供しています。



通関

全国6つの地域にて、お客様からの依頼を受けて、税関への輸出入申告や各種手続きの代理・代行業務を行っています。AEO認定通関業者として、安心・安全な国際物流とスピーディな輸出入通関サービスを提供しています。



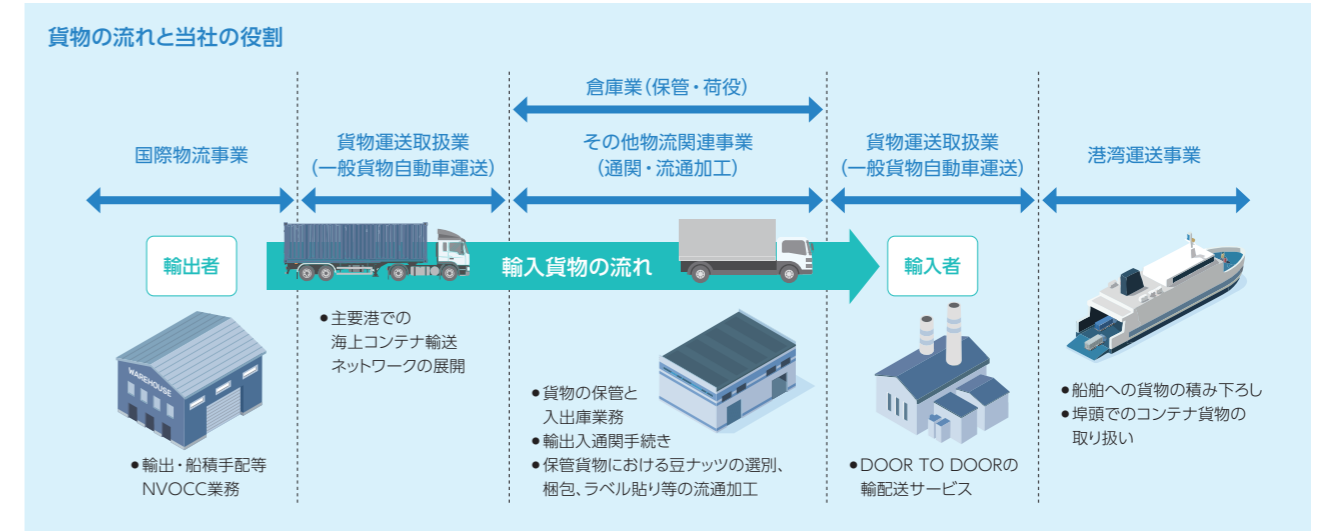
国際物流

長年の国際複合一貫輸送の経験と実績を活かした、カスタマイズ物流サービスを提供しています。手続きを一貫して処理できるシステムを備え、東南アジアや米国にある自社物流拠点を通して、二国間、三国間等、あらゆるトレード形態に対応しています。

川西倉庫の強み

産地から工場納入までの一貫輸送体制

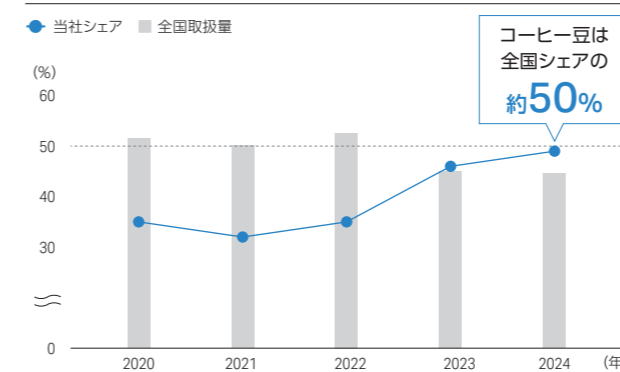
物流業の老舗として、国内主要貿易港を中心に普通倉庫・冷蔵倉庫を展開し、港湾運送から保管、通関、流通加工、輸送まで一貫した総合物流サービスを提供しています。



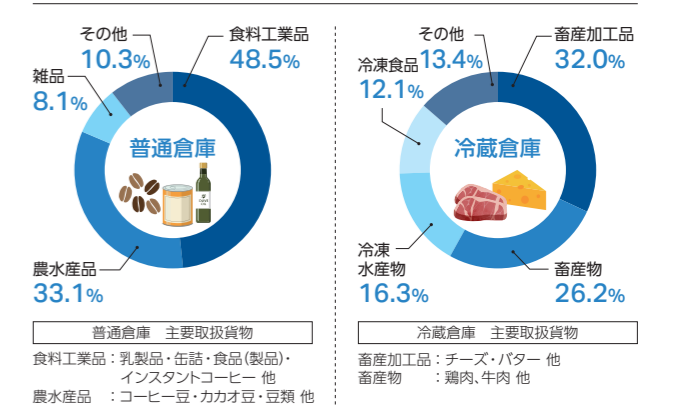
きめ細かい品質管理と在庫管理

適正な保管温度管理、効率的な保管オペレーションなどのノウハウが必要な輸入食品の取り扱いを強みとしています。主要な取扱貨物は、普通倉庫ではインスタントコーヒー・缶詰などの食料工業品、コーヒー豆・カカオ豆・豆類などの農水産品、冷蔵倉庫ではチーズ・バターなどの畜産加工品、鶏肉・牛肉などの畜産物です。なかでも特に、コーヒー豆や乳製品の取り扱いを得意としており、コーヒー豆は全国シェアの約50%を取り扱っています。

コーヒー豆の当社シェア



主要取扱貨物の輸入量割合



グローバルネットワーク

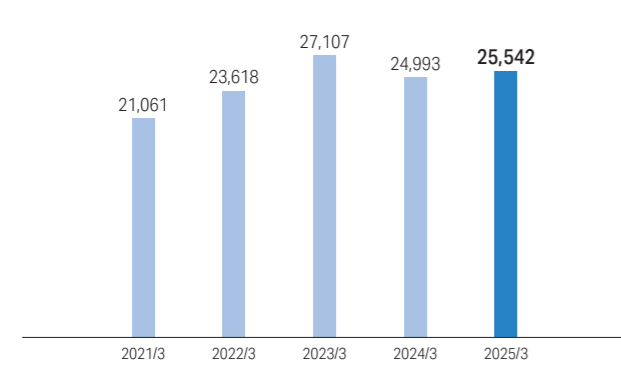
生産地から消費地までの物流一元化をテーマに、海外現地法人、駐在員事務所を軸に現地代理店との緊密な連携により迅速で、安全かつあらゆる形態の国際物流に対応できるサービス体制を実現しています。

充実した人材育成

当社グループでは労働力不足に対応した人材(人財)育成を重要課題として認識しており、各種階層別の研修制度を実施していますが、今後さらに加速させていき、社員一人ひとりのスキルアップ・キャリアアップを行いグローバルに活躍できる人材の育成を行ってまいります。他にも、海外拠点の業務拡大を目指し、海外での業務を担える人材の発掘、業務知識レベルの向上、キャリア形成、女性社員の登用を目的とし、海外拠点においての実地研修制度を実施しています。

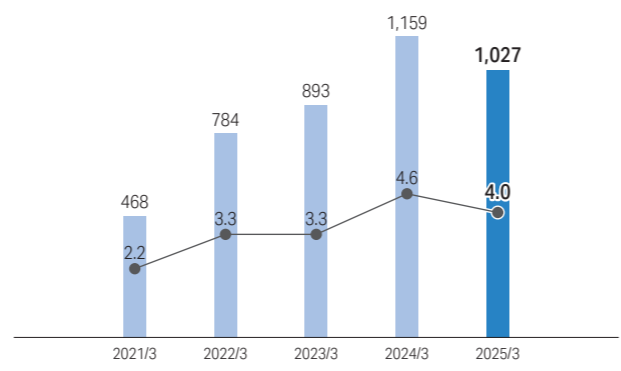
財務ハイライト

営業収益
25,542 百万円



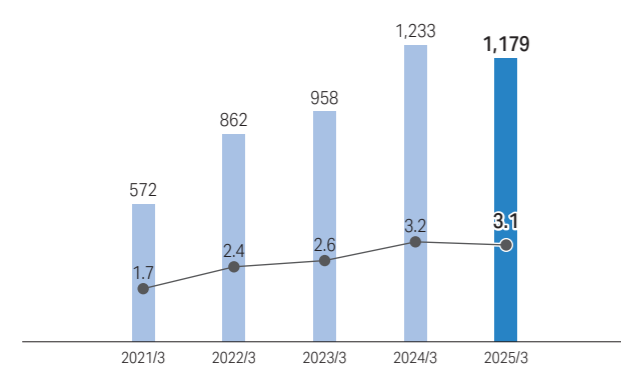
港湾運送業務の取扱量が減少しましたが、倉庫業務での保管単価の上昇や貨物運送取扱業務の好調な推移により増収となりました。

営業利益／営業利益率
1,027 百万円／**4.0** %



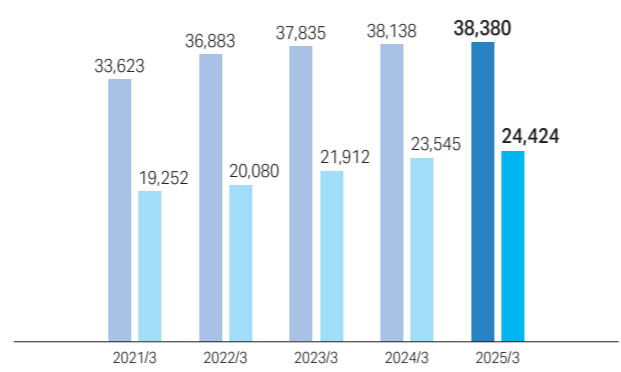
港湾運送業務の取扱量の減少、海外子会社の低調な業績推移および人件費の増加等により減益となりました。

経常利益／経常利益率
1,179 百万円／**3.1** %



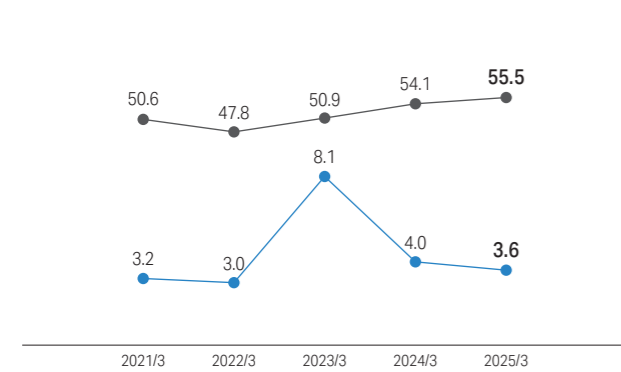
営業外収益(為替差益)の増加があったものの、営業利益の減少により減益となりました。

総資産／純資産
38,380 百万円／**24,424** 百万円



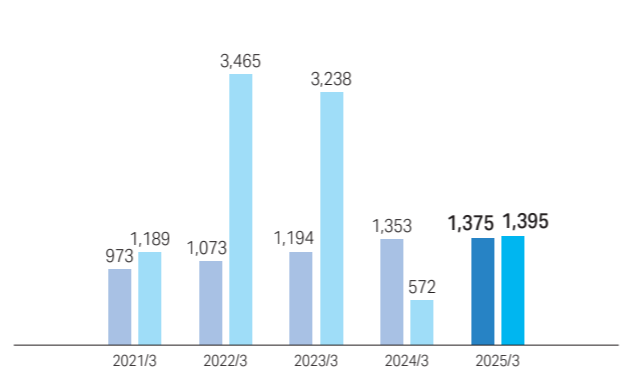
長期ビジョン(KAWANISHI2030)PhaseIの方針に基づき、健全な財務体質を意識しながら経営基盤の安定と強化を基本とし、筋肉質な体質の実現を図りました。

ROE／自己資本比率
3.6 %／**55.5** %



自己資本比率は1.4ポイント改善しましたが、ROEは0.4ポイント低下しており、資本収益性の向上に向けた方針および取り組みを強化します。

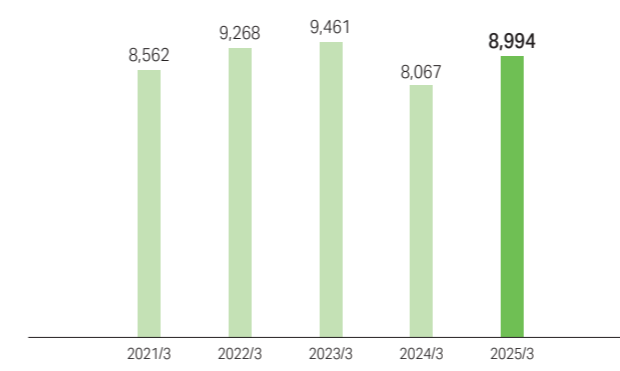
減価償却費／設備投資額
1,375 百万円／**1,395** 百万円



PT KAWANISHI WAREHOUSE INDONESIA倉庫用地8億円、マテハン機器1億円、定温機・冷凍機の更新等を実施しました。

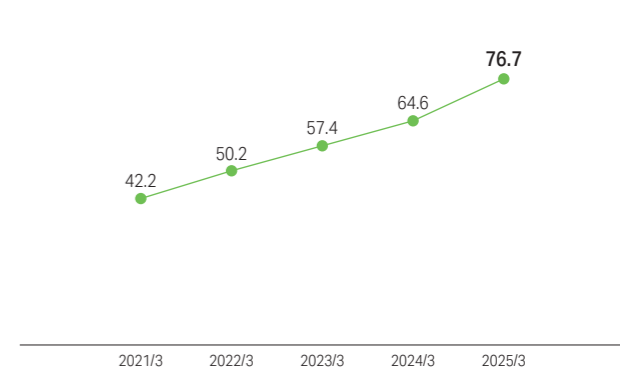
非財務ハイライト

CO₂排出量
8,994 t-CO₂



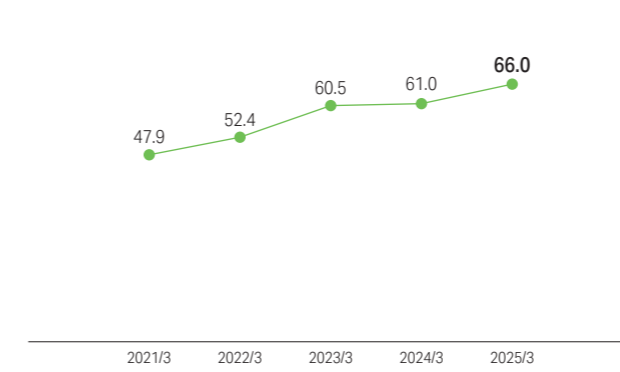
物流施設の脱炭素化に向け、冷蔵・定温倉庫設備の効率的な稼働や庫内温度の適正管理に取り組みましたが、貨物増加による定温庫の増設等により、CO₂排出量は増加となりました。2023年度の減少は、一部施設の運用見直しによるものです。

自社倉庫の環境負荷に配慮した定温機導入率
76.7 %



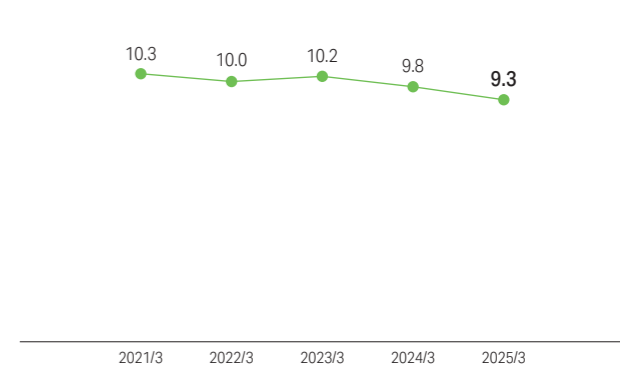
地球温暖化およびオゾン層への影響の低減を目的として、環境負荷に配慮した定温機への計画的な更新投資に取り組み、導入率は年々増加しております。

自社倉庫のLED照明導入率
66.0 %



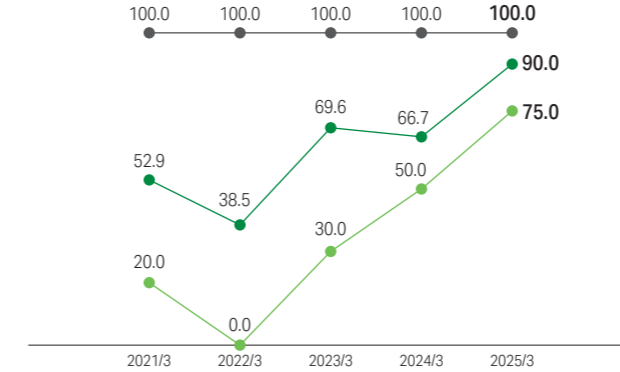
CO₂排出量の削減を目的として、LED照明への計画的な更新投資に取り組み、導入率は年々増加しております。

女性管理職比率(川西倉庫単体)
9.3 %



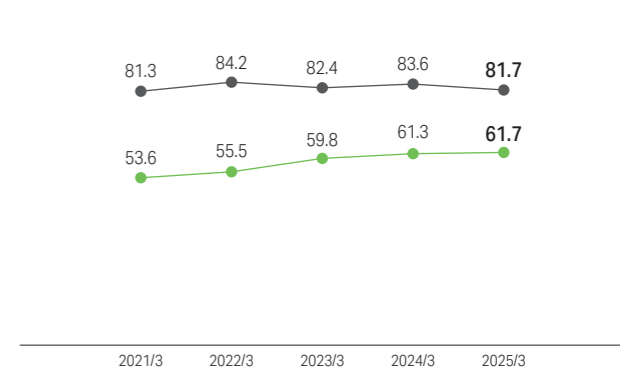
新たなビジネスを推進していくには多様性が不可欠となっております。当社においても、様々な事業領域において多くの女性が活躍しております。

男女別育児休業取得率(川西倉庫単体)
75.0 %／**100.0** %



ライフイベントによる影響があっても能力を十分に発揮できるための職場環境の整備に取り組み、女性の活躍の場も広がっております。

休暇取得率(川西倉庫単体)
61.7 %／**81.7** %



年次有給休暇および特別休暇の取得促進を図っており、ワークライフバランスの実現に努めております。